

公募及び会議の運営に関する意見一覧表

資料 19

	No.	旭川市市民参加推進会議（第3回）までに提案された意見	意見の実現に向けた、事務局としての考え方	意見（提言）として盛り込むか			
				○	×	△ 一部可	その他 (意見など)
公募に関する内容	①	公募チラシに年間（年度）の内、何回実施し、具体的な開催時間帯はいつなのかを示した方が委員は参加しやすいと思う。公募する際、平日・休日問わず夜間の時間帯は終了時間も含めてより具体的に示した方がよい。 例）：18時30分から2時間程度 など。 更に、前年に会議が開催された実績があれば、実際の開催時間帯と開催回数を事例として載せてみてはどうか。	会議の開催時間をあらかじめ周知することは、非常に重要なことだと考えています。 「基準の解釈・運用」では、P19【第5条関係】として会議の開催回数（頻度）及び時間帯をチラシに掲載すべき事項として規定されており、この部分については改めて周知徹底を図るとともに、昨年度の会議の実績がある場合には、事例として時間帯を載せるよう促すことも必要だと考えます。				
	②	一度選任されてしまうと、委員は絶対に欠席できないのではないかと、いった不安を抱えており、公募の参加に二の足を踏んでしまう現状がある。 当然事務局側は極力欠席はしないで欲しいという思いは強くあると思うが、“欠席は可能”ということも表記して欲しい。	事務局側としてはより多く会議に出席できる方に委員になって欲しい思いはあると思います。 （※欠席する場合の対応は委員就任時に担当課から個別の説明で可能では。） 公募で選出された人はその人物に着眼して選出されており、代理もきかない制度であることは理解していただきたいと思います。				
	③	公募の際に自分が想像していた内容と、実際の会議の内容が大きく乖離している場合が多々あり、『こんなはずじゃなかった…』とならないためにも、チラシの中で会議の正確な内容をきちんと伝えるようにして欲しい。 また、公募チラシに使用する文言も極力平易なものがよい。とくに、会議の概要や活動内容は、「この会議ではこういったことを議論しますよ」ということを、分かりやすくきちんと伝えることができるイメージで作成することが重要。	チラシを作成する際には、極力平易な用語を使用し、会議の内容（審議する事項）を説明する際には、誤解が生じないように文章の表現には十分留意すべきものと考えます。				
	④	市政に詳しくなくても参加しても大丈夫という雰囲気が感じられると良い。また、一市民として気楽な発言や稚拙な質問は許されない印象を受ける。	附属機関の会議は専門的な知識がなくても、その委員が感じた思いの意見を自由に発言してもらって構わない場だと言うことを意識すべきと考えます。				
	⑤	基準のP10第3条（公募委員の応募資格）（1）に「旭川市内に居住しているか、通勤通学している者」という条文がある。 旭川市に興味を持って公募に参加してもらえれば、それで十分だと思う。	附属機関等の施策が地域に根ざした内容であることが中心なため、このような規定が設けられた経緯があると思うが、住民の意見を反映する意味としては、居住・通勤等要件は必要と考えます。				

	No.	旭川市市民参加推進会議（第3回）までに提案された意見	意見の実現に向けた、事務局としての考え方	意見（提言）として盛り込むか			
				○	×	△ 一部可	その他 （意見など）
公募に関する内容	⑥	報酬（報償）の増額をすることで、公募の充実が図られるのではないか。	第3回会議において使用した資料15では、報酬が附属機関7,700円、懇談会は2,000円～交通費程度、そして0円という違いがありましたが、農業センター運営懇話会の謝礼0円で募集0人が際立っており、全体的に見ると報酬の多寡が応募数に直接影響しているかどうかは、現段階では不明です。 附属機関は条例で一律に報酬の額が決められていますが、懇談会等は各課の要綱等で個別に定められており、これまでの運営の経緯から金額が決められている場合もあることから、会議の自主性を重視し、報酬（報償）について、増額を促す等は難しいと思われれます。				
	⑦	応募する女性を増やすことが公募に応募する全体の増員に繋がるのではないか。	現状応募者の約6割は男性が占めており（令和3年度公募実績より）、女性の応募者数が増えると全体の底上げになります。女性の委員がもっと多くなれば、公募に応募しようとする女性も今後出てくるかもしれません。 次年度における重点的に検討すべき課題だと考えています。				
	⑧	白熱した議論となった場合、時間が長くなってしまふ場合など、次回に延期することがあるなどあらかじめ表記した方がいいのでは。	議論の進行状況により、次回に持ち越すことは会議をしている以上可能性はゼロとは言えないと考えます。一方で、事務局側で議事の分量を調節することも求められると考えられますが、この部分については各機関の裁量において判断すべきかと考えています。				
	メモ欄						

	No.	旭川市市民参加推進会議（第3回）までに提案された意見	意見の実現に向けた、事務局としての考え方	意見（提言）として盛り込むか			
				○	×	△ 一部可	その他 （意見など）
公募に関する内容	⑨	公募チラシにQRコードを付けてそこからアクセスして直接応募できるようにすると、もっと気軽に応募ができるようになるのでは。	デジタル環境の変化に合わせて応募しやすい工夫をすることは、多くの人に気軽に応募してもらえるため、大切だと考えます。 「基準の解釈・運用」P19【第5条関係】、P20【第6条関係】において、例えばQRコード等を利用した電子媒体による応募方法を盛り込むといったことが考えられます。				
	⑩	公募に応募する人をより多くするために、どのようなチラシにしたら良いかという点については、事務局がひな形の具体例を示したらどうか。	推奨するチラシのイメージを具体化して示してしまうと、それぞれの機関の個性や特色が失われて、公募が魅力的ではなくなってしまうことが懸念されるため、様式を示すべきではないと考えます。				
	⑪	公募チラシにできるだけ人目を引くようなイラストやカラーを取り入れることで、まずは公募に対して興味を持ってもらうことが重要ではないだろうか。	「基準の解釈・運用」P19【第5条関係】において、会議の開催回数（頻度）及び時間帯のほか「チラシはイラストの使用や色紙への印刷など、人目を引く工夫をしてください。」と規定されており、この部分については改めて周知徹底を図ります。				
	⑫	チラシの配布場所について、現状に加えて公募のコーナーを分けるか、あるいは市役所のメインのチラシを置いている所に公募コーナーを設置したらよいのでは。 また、公募委員全体を紹介するような公募啓発ポスターや、紙媒体でその年度に予定のある公募一覧表等を作成し、分かりやすい場所に配置することで、前向きになった人を応募させやすくなるのではないかと。	非常に有効な提案かと思いますが、時期的に令和5年11月に予定されている新庁舎への移転のこともあり、現状では具体的なことははっきりと言えないのが正直なところです。 新庁舎への移転後の状況を踏まえながら、目に付きやすい場所を探しておくことは必要と考えていますが、具体的には少し先の話になるかと思っています。				
	⑬	公募可能な年齢は18歳からだが、高齢者も気軽に応募できるように年齢上限はないということをうたって欲しい。	現状では比較的年齢層の高い委員が大半を占めており（令和3年度公募アンケート結果より）、本市としては全世代満遍なく委員になってもらうのが理想的かと考えています。 現行の「18歳以上」との書き方でも問題ないと考えています。				
	メモ欄						

	No.	旭川市市民参加推進会議（第3回）までに提案された意見	意見の実現に向けた、事務局としての考え方	意見（提言）として盛り込むか			
				○	×	△ 一部可	その他 (意見など)
公募に関する内容	⑭	1度選任された人も何年か経過することで、また次の公募に応募できることを分かりやすく表記すべきでは。	限られたチラシのスペースの中で、市民に対してここまで細かいケースについて説明するのは非常に難しいかと思います。 それよりも、公募委員と担当課との間で気軽に問合せができる関係を構築することが重要かと思います。				
	⑮	最初から作文を課するのは応募者にとって大きな負担となることから、選考時において必要な場合のみ実施するなど、必要最小限にとどめるべき。	「作文による選考を行う場合にあっては、応募段階での提出書類は応募用紙にとどめ、選考の必要が生じた際に改めて作文の提出を求めるなど、応募者の負担を軽減し、より多くの応募を獲得するための工夫に努めてください。」と規定して運用しており、この部分については、改めて周知徹底を図るべきだと思います。				
	⑯	大学や専門学校に対して声かけをしてみてもどうだろうか。	令和3年度には「男女共同参画審議会」及び「市民参加推進会議」の2つの附属機関が市内3大学に対して声かけをしています。 応募を増やす取組の一つとして、広く知らせることは大切であり、委員に同大学の生徒がいる場合等、積極的に案内をすることが重要と考えます。				
	⑰	1枠でも『若い人専用枠』みたいのがあれば、ある程度の強制力が生まれ若い人が参加しやすくなるのでは。	現行の規程の中で、青年層の積極的な登用を盛り込んでおり、20歳代から30歳代と位置付けています。 義務的に枠を設けるのは、人材が足りないなど現実的には難しい問題もあるかと思います。 まずは、義務的に若い人を登用させるのではなく、いかにして興味を持ってもらうか、そのことに重点を置くべきだと考えます。				
	⑱	外局の部署等は、そこの職員がめばしい人に対して声かけする誘い方が良いかと思う。外のイベントで市民がやって来たときに、公募の案内をして“いかがですか？”というような。	現行でも「市民への周知を徹底するため、必要に応じて、機関の審議事項に関わりのある団体等や（施設運営に係る機関であれば）、施設利用者にお知らせするなど、積極的に応募を呼びかけます。」と規定・運用しており、この部分については、改めて周知徹底を図るべきと考えています。				
	⑲	その公募に関する対象者数を割り出すことで、公募ごとの適切な募集人数の目安となるのでは。	公募に対する対象者数という考え方はこれまでになく、算出方法も具体的な検討は難しいものと思われます。				
	メモ欄						

	No.	旭川市市民参加推進会議（第3回）までに提案された意見	意見の実現に向けた、事務局としての考え方	意見（提言）として盛り込むか			
				○	×	△ 一部可	その他 （意見など）
会議の運営に関する内容	①	難解な専門用語は極力使わないで簡単な言葉で初回の説明を行って欲しい。専門家ではない自分達は、会議を何度か経験することで少しずつ理解していくことができるので、2回目以降も平易な言葉で会議を進行することで、皆が参加しやすい雰囲気を創出することができるのではないか。会議資料もその辺りを配慮して作成して欲しい。	必ずしも専門家とは限らない公募委員の率直な意見だと思います。市も意見を求めるためには踏み込んだ説明が求められると考えます。				
	②	時間が長くかかりそうな場合は、無理にその日で議論を終わらせようとせずに、次回に持ち越して欲しい。こちらも18:30～20:30位の2時間程度を予定して参加しているので、大幅な延長などは対応が難しくなる。	会議によっては、思いのほか議論が白熱して予定よりも長くなってしまふことはしばしばあるかと思えます。 ケースバイケースになるかと思いますが、事務局としてはどうしてもここで中断するのは都合が悪い等の事情があれば、委員の方にこのまま続けても良いか、確認をした上で続行するか判断した方が良いでしょう。 また、初回の会議の段階で、そのような状況になった時に、どう対応するかを事前に取り決めておくのも有効と考えます。				
	③	会議の雰囲気として、こんなことを発言して、的外れではないか、自分の発言は許されるのか、といった不安を払拭するような会議作りを心がけて欲しい。検討事項の内容が広く、発言には専門的な知識が必要だと感じる。また、ベテランの議長や委員がいるため、自由に発言しにくい雰囲気がある。	委員の不安を軽減するために会議の事務局が会議の前や後にもっと個別フォローすることが求められると考えます。				
	④	意見があっても引っ込み思案な人はなかなか手を上げられない。相手（会長や副会長、事務局）から直接聞かれた方が発言しやすい。当てられた方が。	会議の運営において、会長や副会長、事務局は発言をしていない委員や、発言回数が極端に少ない委員がいないか常に注意を払いながら、進行していく必要があります。令和3年度公募委員アンケートの意見にもあったように、委員が疎外感を抱くことなく、充実した会議とするためにも、状況次第では直接「○○さんどうですか？」といった形で指名するという方法は有効だと考えます。				
	⑤	（若い人の立場から見ると）若い人が多い方が発言しやすい。	比較的高い年齢層の委員が大半を占めているのが現状であり（令和3年度公募アンケート結果より）、全世代満遍なく委員になってもらうのが理想的です。 公募に関する要望⑰と重複するのですが、「附属機関の委員の選任に関する基準」の中で、青年層（20歳代から30歳代）の積極的な登用を盛り込んでいますが、なかなか増加には至っていません。 一人でも多く発言できる場の雰囲気作りは大切かと思えます。				

	No.	旭川市市民参加推進会議（第3回）までに提案された意見	意見の実現に向けた、事務局としての考え方	意見（提言）として盛り込むか				
				○	×	△ 一部可	その他 （意見など）	
会議の運営に関する内容	⑥	オブザーバーとして大学を通して、ゼミ等の活動の一環として参加してもらう方法はどうか。	現行の傍聴の制度を活用することで対応可能かと考えられますので、積極的に傍聴者を増やす取組として重要と考えます。					
	⑦	会場が駐車場から遠くて不便である。	新庁舎を利用するようになれば、新庁舎内で会議の開催がしやすくなり、庁舎に併設される駐車場の利用できると見込んでいます。					
	⑧	小さい子どもがいる家庭は昼間の時間帯の方が動きやすい。	毎回全員が都合の付く時間に開催するのは難しいかもしれませんが、施策によっては、重点的に意見を聞くべき世代などに合わせて開催時間を柔軟に変えることも必要と考えます。					
	⑨	会議の開催時間は大学の授業が終わってからの方が動きやすい。						
	⑩	意見整理シートを会議前に各委員が記入し、会議で聞いてみたいことや分からないこととか、期日を決めて事前に提出する。それを会長との打合せ時に事前に内容を伝え、整理して進めると良いと思う。	委員の意見を引き出す手法として、検討すべきものであると考えます。					
	⑪	今回の議題についての意見を最初に聞くので、その内容を事前打合せで会長と一つでも決めておき、それを書き込んだ用紙を会議資料に同封するのはどうか。						
	⑫	委員が送付されてきた次回の資料に目を通した際に、疑問やこれを聞きたい、こうしたらいんじゃないかというのを入力してもらう紙を用意してはどうか。						
		メモ欄						